

NPO 法人体験教育研究会 ドングリ

年次報告書

平成 29 年度



左上：愛宕幼稚園年長組とヤギの触れ合い 右上：キュウリの収穫をする幼児 下：北の菜園全景

飯塚市庄内生活体験学校

(指定管理者 NPO 法人体験教育研究会 ドングリ)



B7:大根(夏のきざし)
(平成29年3月26日)

はじめに

ここに、飯塚市庄内生活体験学校の指定管理3年次・平成29年度の管理運営の概要を年次報告書としてまとめました。指定管理期間全5年の半分を越して折り返し点を過ぎました。

平成29年度運営の新たな取り組みは、幼稚園・保育園（所）・認定子ども園（以下、保育・教育施設という）の新たな利用を働きかけたことでした。どんな取り組みでも同じことですが、初めての取り組みは前年踏襲型の取り組みに比べると数倍のエネルギーを必要とします。とまどいながらも、初年度としては一定の前進をみたのではないかと思います。規模の大きな幼稚園と規模の小さな保育園の園児を招いて芋掘り体験とシイタケのコマ打ち体験を試みました。規模の大きな公立子ども園・公立保育所に出かけて、ヤギの移動展示と新たに製作した釜2基を持ち込んで石焼きイモ作りの展示を行いました。いずれも園児の笑顔に引き込まれる場面がたくさんあって達成感のある取り組みでした。この取り組みが今後広めていくべき方向であろうという感を深くしました。合宿関連の取り組みとしては、新たに子どもゆめ基金の助成活動として集団生活入門講座を実施しました。子ども達はこの講座で、集団での生活を送るために必要な心構えと技能を学びました。例えば、管理栄養士を講師に迎えて食中毒予防の基礎知識を丁寧に教えていただきました。また、ヤギの多頭飼育を実践しておられる講師を招いて飼育の実際を教えていただきました。これからは、講座の内容をキャンプなどの場面で参加した子どもがリーダーの役割を果たせるような内容に充実していこうと考えています。このような取り組みの成否は、職員が情報を共有し意識認識を一つにするかどうかにかかっています。この点を大切にするために朝礼を行い、前日までの経過を報告し確認し合いました。交代制の勤務を常態とする生活体験学校の場合、特に大切なことであり、例外なしに毎日情報を交換し合いました。合宿指導については、気づいたことをためら

わずに改め、従来通りでない指導の場をたくさん作りながら改善しました。合宿以外のプログラムは、子どもゆめ基金の助成活動を進めました。従来から取り組んできた幼児と児童の野菜作り、小学生対象の自然と生活の体験塾も盛況でした。トイレ掃除の仕方を学ぶ講座も大勢の子ども達が参加しました。シイタケ栽培の講座は、これまでも実施していましたが、独立した単独講座として実施しました。初めて地元の安藤 健一氏から クヌギの木をホダギ用に寄贈していただきました。後期は、初めて実施した取り組みでしたが、「冬と早春の農業体験」を実施しました。12月から3月までの寒い時期でしたが、畑で寒い時期だからこそその農業体験を親子で学びました。施設管理に関する取り組みも大幅に進めました。クスノキの枝降ろし、ピザ窯建屋に板張り新設、管理棟屋根の錆落としとペンキ塗り等々です。幼児の野外活動支援の経過も記載の通りです。プログラム関連の取り組みも様々に進展しました。初めて鹿児島県庁の農業開発総合センターから上野 敬一郎博士に来ていただいてサツマイモの作り方を教えていただきました。篠栗町で開催された緑の少年団のキャンプで、子ども達がドングリの森作りとシイタケ栽培の実践発表をしました。石焼きイモの釜と窯を大中小合わせて5基作りしました。試行錯誤を重ねてイモ釜の焚き方も上達して寒い期間は石焼きイモが大繁盛でした。年報に書き遺しておきたいことがありすぎて、昨年度の年報に比べると頁数が増えてしまいました。生活体験学校の管理運営はたくさんの方々の支援で、ここまで来れました。これからもご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年 4月 8日

特定非営利活動法人体験教育研究会 ドングリ
理事長 正平 辰男

目 次

はじめに	
I 年間の事業概要	P 1
I-1 指定管理業務概要：飯塚市庄内生活体験学校3年目	
I-2 自主事業概要：子どもゆめ基金助成活動を5事業実施	
II NPO法人体験教育研究会ドングリの運営に関する主な取り組み	P 1
III 施設管理に関する主な取り組み	P 1
IV 体験活動プログラム関連の取り組み	P 3
V 幼児野外活動支援の取り組み	P 4
VI 業務概要	P 5
VI-1 指定管理業務概要	P 5
1-1 「生活体験合宿・通学合宿」	P 6
1-2 「幼児の野外活動支援」	P 7
VI-2 自主事業概要	
2-1 「植物栽培・活用体験ドングリ」（子どもゆめ基金助成活動）	P 9
2-2 「自然と生活の体験塾」（子どもゆめ基金助成活動）	P10
2-3 「集団生活体験入門講座」（子どもゆめ基金助成活動）	P11
2-4 「ドングリの森づくりとシイタケ栽培」（子どもゆめ基金助成活動）	P12
2-5 「幼児と児童のための冬と早春の農業体験」（子どもゆめ基金助成活動）	
2-6 「第1回生活体験発表会」	P13
2-7 「第1回幼児の野外活動支援報告会」	P14
VII 決算報告	P15
VIII 資料編	
1. 本管理業務の実施状況	P16
2. 平成29年度 主催事業実施カレンダー	P18
3. 施設管理に関する主な写真	P19
4. 掲載された新聞記事	P21
5. 平成29年度 役員・職員一覧	P23
裏表紙 平成29年度作成ポスター	

I 年間の事業概要

I-1 指定管理業務概要：飯塚市庄内生活体験学校運営3年目

平成29年度、主な事業として、6泊7日の通学合宿を年間3回、1泊3日の生活体験合宿を年間18回実施した。また、施設利用として、庄内子育て支援センターや颯田いちごクラブの活動支援、愛宕幼稚園や愛の光保育園の芋掘り体験などの野外活動支援を実施し、平日昼間の利用促進を行った。特に、愛宕幼稚園などの幼児の野外活動支援は、平成29年度が初めての事業であり、今後の生活体験学校の平日昼間の利用への大きな一歩になった。

I-2 自主事業概要：子どもゆめ基金助成活動を5事業実施

(1) 「幼児と児童のための植物栽培・活用体験 ドングリ」

「子どもゆめ基金」より助成金681千円を受け、4月から11月まで、合計8回実施した。
参加人数も昨年度よりも増え、子どもは192人、保護者は92人の合計284人が参加した。

(2) 「小学生のための自然と生活の体験塾」

「子どもゆめ基金」より助成金516千円を受け、5月から11月まで、合計7回実施した。
参加人数は、小学生180人だった。

(3) 「集団生活体験入門講座」（新規事業）

「子どもゆめ基金」より助成金 589千円を受け、5月から2月まで、合計10回実施した。
平成29年度が初めての事業で、管理栄養士、教員、ヤギ飼養者の専門家を講師に迎え、専門的な知識と実践を通して学ぶことができた。参加人数は、小学生217名だった。

(4) 「ドングリの森づくりとシイタケ栽培」（新規事業）

「子どもゆめ基金」より助成金262千円を受け、12月に2回、1月に2回、2月に1回、合計5回を実施した。ドングリの植樹、原木の伐採、シイタケのコマ打ち、シイタケの収穫を通して、シイタケ栽培とドングリの森づくりの関係を学んだ。延べ83人の参加があった。

(5) 「冬と早春の農業体験」（新規事業）

「子どもゆめ基金」より助成金409千円を受け、12月から3月まで、合計4回実施した。冬から春にかけての事業になるので、収穫作業よりは、堆肥づくりや土壌づくりを中心にした内容で実施した。参加人数は、子ども46人、保護者17人だった。

II NPO 法人体験教育研究会 ドングリの運営に関する主な取り組み

- H29. 4. 8 NPO ドングリ通常総会
- H29. 11. 23 第1回生活体験発表会
- H29. 12. 26 お泊り保育のための見学会
- H30. 3. 28 第1回幼児の野外活動支援報告会

III 施設管理に関する主な取り組み (* 資料編Ⅷ-3の写真を参照ください)

- H29. 4. 3~4 南の菜園の散水用蛇口新設、ホース埋設
- H29. 4. 8 ビニールハウス移設
- H29. 4. 13 北の菜園に散水ホース埋設
- H29. 4. 15 クスノキ（北端の）の間の廃屋を処分 北の菜園に、「落ち葉囲い」（1か所）を作る
- H29. 4. 17 餅つき道具倉庫の片付け、冷蔵庫などを運び出す 壊れた印刷機を物置に移す
- H29. 4. 23 北の菜園に、「落ち葉囲い」を作る（2か所目）
- H29. 4. 28 駐車場にラインをひく

- H29. 5. 11 生活棟の玄関に靴置き棚移設（生活文化交流センター2階より）
- H29. 5. 11 南の菜園に「落ち葉囲い」を作る
- H29. 5. 13 交流センター2階からパイプ椅子40脚その他を下ろす
- H29. 5. 23 敷地の南側のり面に階段（一部は石段）を作る
- H29. 5. 23、5. 26 クスノキ1本伐採とクスノキ枝下し、（有）本松通信工業
- H29. 6. 4 倉庫の扉を新調し付け替え。ヤギ輸送用枠作る
- H29. 6. 20 クスノキの巨根掘り出し作業
- H29. 6. 21 大工小屋の拡張 160 c m×270 c m
- H29. 6. 24 赤扉の裾板張り替え、戸車取り換え
- H29. 6. 30 シイタケ栽培遮光施設（寒冷紗張りのため建柱）完成
- H29. 7. 4 生活文化交流センターのシャッター修理、三和シャッターの工事が終了。（生涯学習課の予算措置による）
- H29. 7. 12 工作台2台（万力その他）を車庫の奥に移設
- H29. 7. 21 街灯1基撤去、バスケットゴール3本撤去。大工小屋
他コンセント3基設置。倉庫蛍光灯設置。
- H29. 7. 27 キイロスズメバチの巣、管理棟の屋根より除去
- H29. 7. 29 使用不能の壊れた印刷機を廃棄処分（小川商事）
- H29. 7. 29 クスノキの巨根ついに動いた！
ジャッキ2台でクスノキの巨根掘り出し作業。
- H29. 7. 30 床張り倉庫北に薪小屋新設
- H29. 8. 2 風呂釜用の薪置き場新設
- H29. 8. 16 スズメバチの巣、シイタケ小屋屋根の梁の裏側より除去
- H29. 8. 18 農具倉庫と新建屋を結ぶ直線20mに塩化ビニール管を埋設。蛇口を4か所に増やした。
- H29. 8. 21 ヒラタケの本伏せ完了。
- H29. 8. 22 クスノキの巨根の運び出し完了（有）本松通信工業の重機で。
- H29. 8. 30 ピザ窯建屋に板張り完成、725cm×372cm。農楽堂と命名。
- H29. 9. 6 生活文化交流センター2階より棚を移設。野菜置き場として元の工作台跡に据える。
農楽堂に蛇口増設、セメン流し台設置。
- H29. 9. 13 管理棟の屋根（トタン）点検、前回のさび止めの効果が認められた。
- H29. 10. 5 ウサギが穴を掘って屋外に脱走したため、小屋の拡張部分にエキスパンドメタルを敷き込んで全面にセメントを張った。ウサギ小屋の扉2枚を取り外して1枚を新たに取付けた。
荷台を2か所新設した。管理棟の風呂釜を生活棟の風呂釜と入れ替え、劣化した煙突を新品と交換した。
- H29. 10. 7 管理棟脱衣所に据えてあった洗濯機（手袋など汚れ物専用）を屋外に移設した。
- H29. 10. 18 クリムゾンクローバーの植栽のため、ピザ窯の裏山に6m×6mのお花畑を作り、管理棟の檜の植え込み手前にも幅1mの畑を作った。ヤギ小屋の北側の扉1枚を付け替え、内側の扉の上半分を切り取った。
- H29. 11. 3 耕運機修理、セカンダリーケースの取り換え他、10万8千円。
- H29. 11. 8 南の菜園東端のクスノキの根、本松通信に重機で抜いてもらった。南の菜園に「隅の畑」完成。
- H29. 11. 10 管理棟の屋根（トタン）の錆止めとペンキ塗り完了。9/13 塗料を買う。10/17 さび落と



切り株の撤去

- し、ペンキを塗る。10/25 ペンキを塗る。
- H29. 11. 10 ドラム缶を利用した石焼き芋釜2基（3・4号釜）完成。
- H29. 11. 10 「農楽堂」の看板取り付け、平山直詞校長揮毫。
- H29. 12. 3 管理棟壁板にペンキ塗る。
- H29. 12. 8 九州電力飯塚営業所に連絡してクヌギの枝打ち。細い2本のクヌギのみ。
- H29. 12. 10 南の菜園に「落ち葉囲い」2つ目を作る。
- H30. 1. 6 コンクリート製の焼却炉を石焼きイモ窯（5号窯）に改造。
- H30. 1. 8 柿の畑、クリの畑の橋掛け。まき小屋の近くに木製の橋、クリの畑へ渡る溝に石の橋を架ける。
- H30. 1. 11 生活棟正面玄関のカギ取り換え。
- H30. 1. 12 石油ストーブ枠新調（生活棟）
- H30. 1. 26 旧洗馬場（大工小屋横）の切込み場北側に風よけ板戸を取付。
- H30. 2. 3 生活棟正面入口引き戸にアルミレールを取付。炊飯かまどの消壺用フタ（縞鋼板）製作。
- H30. 2. 24 交流センター（南側）書類収納の棚と壁を解体。
- H30. 2. 25 交流センター（南側）書類収納の壁と引き戸を解体撤去。
- H30. 3. 1 前日の強風被害の後片付け。ウサギ小屋に「ステン丸棒ラッチ」取付け。
- H30. 3. 3 交流センター2階（北側）器材収納の棚を解体し東側に移設。
- H30. 3. 4 交流センター2階（北側）器材収納の棚を取り外し、ドアを外し、壁全体をはがした。
- H30. 3. 14 風呂釜・ステンレスタンク支持枠点検（異常なし）。
- H30. 3. 18 風呂釜の煙突取り換え。焚口の網作り替え。
- H30. 3. 19 苗箱収納棚作る。
- H30. 3. 25～29 案内板の木枠と台座製作

IV 体験活動プログラム関連の取り組み

- H29. 6. 12 安藤健一氏所有のクヌギ林の下草刈り。リヤカーの荷台1台新調。
- H29. 6. 16 立川ブラインド工場敷地法面のクヌギ林の下草刈り
- H29. 6. 24 鹿児島県農業開発総合センターの上野敬一郎氏に（奥様の久子様と一緒に）サツマイモの作り方の指導を受ける。
- H29. 7. 16 体験合宿第2班の1日目。指導フローチャートを作って説明し、それに従って指導してみた。「ふる係」と「ご飯係」を一緒にして、まき割りの指導を試行した。
- H29. 7. 27 飯塚市緑の少年団16名、福岡県立社会教育総合センター（糟屋郡篠栗町）でのキャンプに参加、体験発表をする。
- H29. 7. 29 社会教育主事講習実践演習9名、ホダギの移動、里芋の土寄せとミネラル堆肥の追肥。畑の養生、ペレットの追肥と畝立て作業。（猛暑の中の作業）
- H29. 8. 18 子どもゆめ基金の困難事業の取り下げ理由書を作成、提出。
- H29. 10. 5 ヒラタケの遮光設備（寒冷紗を張る）をした。ヒラタケ 1～2個が出ていた。
- H29. 10. 10 庄内地区民生委員・児童委員連絡協議会研修会のために会場を提供
- H29. 10. 13 庄内小学校6年生にヤギの移動展示。
- H29. 10. 23 庄内小学校3年生20人、施設訪問として来校。
- H29. 11. 10 新品ドラム缶を加工して石焼きイモ釜の上部（イモを入れて焼く部分）と、火をたくカマドの部分セットにして2基（3号釜・4号釜）製作
- H29. 11. 21 ヤギ小屋の外扉とカミサン2本を新たに作って取り換え。



石焼きイモ釜の製作

- H29. 12. 8 北側のクリ、カキの植樹帯の一部を、畑として開墾始める。
- H29. 12. 13 安藤健一氏所有のクヌギ8本伐採。
- H30. 1. 4 午前、安藤健一氏のクヌギ林に行き玉切り98本。
- H30. 1. 4 午後、落ち葉堆肥の粹作り、ガラス戸を使って完成
- H30. 1. 6 北の果樹植栽地に柿の畑、栗の畑（畑2畝）を開墾、耕作。
- H30. 1. 6 コンクリート製の焼却炉を石焼き窯（5号窯）に改造、大屋根に据える。
- H30. 1. 13 落ち葉堆肥作る。苦土石灰、米ぬか、ようりんを投入。コマ打ち27本完了（ホダギは太目）。
- H30. 1. 19～22 菰田公民館、菰田地区どんどこ焼きのために石焼きイモ釜貸し出し。
- H30. 1. 23 国旗掲揚台近くのアジサイをフェンス際に移植。周辺を開墾、花壇とする。
- H30. 1. 27 コマ打ち37本完了（ホダギは太目）。合計64本。
- H30. 2. 22 苗箱を収納する箱を作る。播種—トウモロコシ、ナス、キュウリ、パプリカ
- H30. 2. 23 苗箱のフタを作る。
- H30. 3. 7 レタス播種。
- H30. 3. 11 竹炭窯の南側に石垣の畑ほぼ完成。

V 幼児野外活動支援の取り組み

- H29. 6. 15 福岡県立飯塚開発センターで私立保育園々長会議、寿会館で私立幼稚園々長会議に初めて出席する。生涯学習課の原課長補佐に同行していただく。
- H29. 6. 23 庄内保育園と愛の光保育園を初めて訪問、年報、ポスターを持参。
- H29. 8. 25 愛の光保育園、筑穂保育所、庄内こども園（24日）、を訪問。
- H29. 9. 14 庄内こども園にヤギの移動展示。
- H29. 10. 11 もりのいえ北九州市立第2緑地保育センターを視察。
- H29. 10. 11 愛宕幼稚園をピザ焼き体験会案内のため訪問。
同様に、12日、鯉田保育園、筑穂保育所を訪問。
- H29. 10. 22 「ピザ焼き体験会」を実施。
愛宕幼稚園から職員8名、家族（子ども）6名、合計14名の参加者。
- H29. 11. 1 愛の光保育園（庄内有安）年長組19人が徒歩でサツマイモ掘りに来た。
園長以下職員4名が引率。初めての平日昼間利用。
- H29. 11. 6 さんない幼稚園（認定子ども園）を訪問、園長と面談。
- H29. 11. 8 愛宕幼稚園年中担任3名、次週の芋ほり体験の打ち合わせのため来校。
- H29. 11. 15 愛宕幼稚園年中児87名、芋ほり体験に来校。
- H29. 11. 17 常葉保育園を訪問、生活体験学校において私立の園長会議を開いていただきたい旨お願いした。
- H29. 11. 21 愛宕幼稚園に石焼き芋窯（2基）、出前講座（年中77名）
- H29. 11. 24 了専寺白菊幼稚園を訪問。
- H29. 11. 27 愛の光保育園、愛宕幼稚園を訪問。
- H29. 12. 5 庄内こども園に石焼き芋出前講座。（12.4 事前の打ち合わせ）
- H29. 12. 11 愛宕幼稚園、愛の光保育園を訪問。シイタケコマ打ちの打ち合わせ。
- H29. 12. 15 筑穂保育所に石焼き芋出前講座。
- H29. 12. 22 筑穂保育所にヤギの移動展示。
- H29. 12. 26 お泊り保育のための見学会、3園から3名出席。
愛宕幼稚園、鯉田保育園、あじさい保育園。

- H29. 12. 28 愛宕幼稚園、コマ打ち体験の打ち合わせ。
- H30. 1. 25 愛宕幼稚園、コマ打ち体験打ち合わせ（ホダギ1本、コマ1袋、木槌1丁携行）
- H30. 2. 6 愛宕幼稚園、コマ打ち体験予定するも大雪のため延期。
- H30. 2. 15 愛宕幼稚園年中組87名、コマ打ち体験。（2. 14 事前の打ち合わせ）
- H30. 2. 23 愛の光保育園、コマ打ち体験出前講座。（2. 21 事前の打ち合わせ）
- H30. 3. 10 愛宕幼稚園に土曜日の特別活動「わくわくさん」の様子を見学に行く。
- H30. 3. 18 愛宕幼稚園卒園式に出席。
- H30. 3. 24 穎田子ども支援センターにヤギの移動展示。
- H30. 3. 28 第1回幼児の野外活動支援報告会
- H30. 3. 29 平成30年度 年間日程協議



愛宕幼稚園児来校



コマ打ちの説明を聞く園児たち

VI 業務概要

VI-1 指定管理業務概要

事業名・目的等	平成 29 年度	平成 28 年度
<p>1. 生活体験合宿</p> <p>◆ 目的：子どもを親の支援の届かない環境において、仲間とともに共同し、自炊をしながら生活することで、自分の役割と他者との共同行動の仕方を体得させることをねらいとした。</p>	<p>事前研修：10回 合宿回数：18回 子ども：735人 保護者：687人</p>	<p>事前研修：8回 合宿回数：16回 子ども：670人 保護者：598人</p>
<p>2. 通学合宿</p> <p>◆ 目的：子ども同士が協力し合って、自炊、風呂沸かし、掃除などの日常的な活動を6泊7日の共同生活を通して、学び体得していく。また、集団生活の規律や難しさも学び、「人間関係の大切さ」等、子どもの自立と自律を育む。</p>	<p>事前研修：3回 合宿回数：3回 子ども：336人 保護者：88人</p>	<p>事前研修：2回 合宿回数：2回 子ども：189人 保護者：46人</p>
<p>3. 「地域・行政・大学・企業との連携」</p> <p>①地域との連携 庄内子育て支援センター・子育て・サークルなどの活動支援</p> <p>②大学との連携 純真短期大学食物栄養学科「教職実践演習」「食育キャンプ」の支援</p>	<p>利用者数 ① 17団体 509人 ② 170人</p>	<p>利用者数 ① 19団体 637人 ② 162人</p>

<p>③行政機関との連携 社会教育主事講習の実践演習・適応指導教室・受け入れ</p> <p>④地域活動支援 老人会梅づくり、公民館サークル「陶遊」の支援</p>	<p>③ 4団体 90人</p> <p>④ 9団体 148人</p>	<p>③ 1団体 14人</p> <p>④ 23団体 758人（延団体数・人数）</p>
<p>4. 幼児の野外活動支援</p> <p>◆目的：これまで生活体験学校が蓄積してきたプログラムのうち、幼児の保育・教育施設が活用できる個々のプログラムを改善・工夫し、実行して教育・保育支援の実をあげる。</p> <p>① 石焼き芋出前講座</p> <p>② ヤギの移動展示</p> <p>③ シイタケのコマ打ち体験</p> <p>④ サツマイモ掘り体験</p>	<p>利用人数（延数）</p> <p>①472人</p> <p>②310人</p> <p>③116人</p> <p>④ 117人</p>	<p>平成29年度新規事業のため、平成28年度は実績なし</p>

VI-1-1 生活体験合宿・通学合宿

<主な体験活動>

- 農業体験：野菜の播種から植え付け、収穫、追肥、除草などの体験活動
- ドングリ栽培体験：ドングリの播種からポット移植、定植の体験活動
- シイタケ栽培体験：原木の伐採、シイタケのコマ打ち、収穫、朽木の破碎活用
- その他の体験：避難訓練、防災教育、鳥羽公園清掃、ピザ焼き体験 など

<生活体験活動>

- おかず係：収穫した野菜の調理、包丁など調理器具の使い方、盛り付け・配膳調理方法（焼く・炒める・煮る・蒸す）、伝統的な調理（出汁の取り方）献立の記録
- ごはん係：飯盒・ダッチオーブンでの炊飯（米の計量・洗い方・炊飯）、記録火起こしの仕方（マッチの使い方、薪の組み方、火加減、消壺の使い方）
- 風呂係：ステンレス製風呂窯 の使い方（水の入れ方、浴槽への注湯方法）火起こしの仕方（マッチの使い方、薪の組み方、火加減、鉋の使い方）風呂掃除の仕方（掃除の手順、道具の使い方、掃除後の点検）
- 動物係：動物小屋掃除（掃除の手順、道具の使い方）、ヤギの給餌、ウサギの世話堆肥作り（生ごみの計量と検温の記録）
- 菜園係：野菜の収穫、農作業（耕作、播種、植え付け、除草、追肥、撒収）、野菜の記録

<保護者からの事後アンケート>

- ・やる気はあるようです。なかなか一緒に行うことが出来ないのですが、本人のやる気を大事に、少しでもさせていきたいと思います。
- ・ご飯を作ること、食器を洗うこと、今一番楽しくて手伝いたいことだそうです。
- ・「やると決めたこと」以外にもいろいろと手伝いをしてくれるようになりました。朝もなかなか起きなかったのに、今では自分で起きるようになりました。
- ・長女から始まり、次女、三女まで本当にお世話になりました。家事をよく手伝ってくれています。体験学校に行っていなければ食器洗いや洗濯もさせてなかったと思います。ありがとうございました。

VI-1-2 幼児の野外活動支援

<活動実績>

- 「愛宕幼稚園」 芋掘り体験（11/15、87名）、石焼き芋出前講座（11/21）
シイタケコマ打ち体験（2/15、87名）
- 「愛の光保育園」 芋掘り体験（11/1、19名）、シイタケコマ打ち体験（2/21、20名）
- 「庄内こども園」 ヤギの移動展示（9/14）、石焼き芋出前講座（12/5）
- 「筑穂保育所」 石焼き芋出前講座（12/15）、ヤギの移動展示（12/23）
- 「颯田子育て支援センター」 ヤギの移動展示（3/24）



石焼イモを焼きました



サツマイモのつるを見ながら説明を聞く園児

平成29年度 幼児の野外活動支援の取り組み（説明資料より）

1. 野外活動支援の目的

生活体験学校がこれまで蓄積してきたプログラムを、個々に改善、工夫すれば、幼児の保育・教育に活用できる内容が数多くある。例えば、平成29年度、生活体験学校の畑では幼児と児童の無農薬野菜作りが年間12回取り組まれた。年々、その技術も上達して、その日の昼食作りや合宿の際の食事作りに必要な食材を提供できるレベルに達している。シイタケの生産や初めて取り組んだヒラタケの生産も子どもの食材として十分な量を提供できている。これらを含めて生活体験学校の実践の中から幼児の野外活動に役立つプログラムを、実行可能なものから徐々に教育課程または「保育の計画」に取り入れていただければ、教育・保育の効果を一層高め、更なる充実を図ることができると考えている。生活体験学校にとっては、長年の課題である平日昼間の活用を促進する取り組みとなる。

2. プログラムにおける活動状況

①ヤギの移動展示

生活体験学校で飼育しているヤギを貸し出す、「移動展示」と呼んでいる。ヤギは、2頭貸し出し可能で、両方メス。運搬は生活体験学校の軽トラックの荷台に取り付けた枠内につないで行う。幼児の餌やり体験をすることができる。要望があれば餌も準備して携行する。去年は、庄内、筑穂、颯田で移動展示をした。

②石焼き芋出前講座

ドラム缶で製作した石焼き芋釜（2基）を軽トラックで運搬し、石焼き芋作りを実施する。1つの釜で、中くらいサイズのイモ30～40個を焼くことができる。幼児の参加場面は様子を見ること、できた芋を試食すること。燃料の薪は生活体験学校から携行する。残り火、灰の始末は生活体験学校職員が行う。別に、鋳物でできた小さめの芋釜（2基）も貸し出しできる。

③サツマイモ掘り体験

芋掘り体験は昨年2園に開放した。手袋を貸与し、土が柔らかいので道具を使うことなく、手でイモを掘ることができる。ツルを切り取って、幼児がすぐに掘れるように生活体験学校職員が準備した。芋掘り体験に先立って、サツマイモに関する絵本の読み聞かせやツルがついた状態のサツマイモを見せて、

イモの生育の仕組みを説明した。掘ったイモは全量持ち帰りした。

④シイタケのコマ打ち

体験生活体験学校ではドングリを植えポット苗に育て植樹している。17年前に植樹して育てたドングリを、2年前から伐採してホダギとして使っている。今年1月と2月に各1回、ホダギにドリルで穿孔し終わった段階で、シイタケのコマをあてがい木槌で打ち込む体験を2園の幼児を対象に初めて行った。2年後にはシイタケの収穫の仕方を教え、収穫体験をさせるため園のネーム入りの札を縛り付けた。

⑤市内子育て支援センター支援

庄内、颯田の子育て支援センターが行う、プレイパークの場所提供やピザ焼きや石焼きイモ体験などの支援を行った。颯田の子育て支援センターにヤギの移動展示をした。

3. 平成29年度 活動実績

- H29. 5. 17 庄内子育て支援センタープレイパーク「石窯ピザ作り」
- H29. 7. 26 庄内子育て支援センタープレイパーク「水遊び・流しそうめん」
- H29. 9. 13 庄内子育て支援センタープレイパーク「スタンプラリー」
- H29. 9. 14 庄内こども園にヤギの移動展示
- H29. 10. 11 もりのいえ・北九州市立第2緑地保育センターを視察
- H29. 10. 22 「ピザ焼き体験会」を実施。愛宕幼稚園から職員8名、子ども6名の参加
- H29. 11. 1 愛の光保育園年長組が徒歩でサツマイモ掘り体験
- H29. 11. 8 庄内子育て支援センタープレイパーク「焼き芋・芋煮会」
- H29. 11. 15 愛宕幼稚園年中児、サツマイモ掘り体験
- H29. 11. 21 愛宕幼稚園、石焼き芋窯（3基）出前講座
- H29. 12. 5 庄内こども園、石焼き芋窯（2基）出前講座
- H29. 12. 15 筑穂保育所、石焼き芋窯（3基）出前講座
- H29. 12. 22 筑穂保育所、ヤギの移動展示
- H29. 12. 26 お泊り保育のための見学会、3園から3名参加
- H30. 1. 17 庄内子育て支援センタープレイパーク「凧あげ・餅焼き」
- H30. 2. 15 愛宕幼稚園年中組、シイタケホダ木のコマ打ち体験
- H30. 2. 23 愛の光保育園、シイタケホダ木のコマ打ち体験出前講座
- H30. 3. 14 庄内子育て支援センタープレイパーク「蒸し物パーティー」
- H30. 3. 24 颯田子育て支援センター、ヤギの移動展示



4. 活動風景



愛宕幼稚園芋掘り体験



愛宕幼稚園コマ打ち体験



庄内こども園ヤギ移動展示



愛の光保育園コマ打ち体験出前講座

VI-2 自主事業概要

VI-2-1 幼児と児童のための植物栽培・活用体験ドングリ（子どもゆめ基金助成活動）

日々食べる野菜は、どのようにして生産されているかを体験を通して学ばせる。自ら生産した野菜を、自らその場で調理して食する。これら連続した体験を通して、生産することが生きるための営みであることを体感、体得させる。子どもに「汚れることを厭わず、働く、生産する体験」をくぐらせる。その過程で、人と人が力を合わせて働くということは、何をどうすることかを繰り返し体験させ、考えさせ、自らの実践力を高めさせたい。上学年の児童に対して、幼児や低学年の子どもへの支援方法に留意させ、その態度や仕方を体得させる。

概要

- ① 期日：4月～11月（合計 8 回）
- ② 対象者：児童・幼児&保護者 40 名程度
- ③ 内容&講師：
 - 農薬を使わない野菜栽培
（指導者：荻原史郎氏・谷義昭氏・河中利通氏）
 - 果樹栽培の方法（指導者：村瀬和彦氏）

プログラムの流れ

- 9：30 開講式
- 10：00 絵本の読み聞かせ
- 10：20 農薬を使わない野菜栽培実習（下記一覧表参照）
- 11：30 生産した野菜を使った料理・会食・後片付け
- 14：00 活動のふりかえり
- 14：30 閉講式

期日	活動内容
第1回 4月15日(土)	絵本の読み聞かせ 「たねのはなし」 作：ダイアナ・アストン、絵：シルビアロング ●播種：リーフレタス、落花生 ●苗植付：里芋 ●収穫：里芋、玉葱、小葱、ホウレン草
第2回 5月20日(土)	絵本の読み聞かせ 「そらまめくんのぼくのいちにち」 作：なかやみわ ●苗植付：ミニトマト、トマト、オクラ、花オクラ、ナス、リーフレタス、落花生 ●収穫：グリーンピース、玉葱 ●手入れ：豆の撤去、マルチの撤去
第3回 6月17日(土)	絵本の読み聞かせ 「ポテトむらのコロケまつり」 作：竹下文子、絵：出口かずみ ●苗植付：さつまいも ●収穫：ジャガイモ、リーフレタス、きゅうり、ピーマン、大根 ●手入れ：ホウレン草の片付け、小松菜の片付け
第4回 7月15日(土)	絵本の読み聞かせ 「くまのがっこう ジャッキーのトマトづくり」 作：あいはらひろゆき、絵：あだちなみ ●播種：きゅうり、芽キャベツ、かぼちゃ ●苗植付：きゅうり ●収穫：かぼちゃ、なす、ピーマン、きゅうり、ツルミドリ、モロヘイヤ、バジル、大葉 ●手入れ：人参の片付け、リーフレタスの片付け、ホウレン草の片付け
第5回 8月19日(土)	絵本の読み聞かせ 「14 ひきのかぼちゃ」 作：いわむらかずお ●播種：ブロッコリー、キャベツ、白菜、リーフレタス、青梗菜、小松菜、春菊、小葱 ●収穫：ナス、ピーマン、オクラ、花オクラ、ツルミドリ、きゅうり ●手入れ：モロヘイヤの片付け、大葉の片付け、バジルの片付け
第6回 9月18日(月)	絵本の読み聞かせ 「ピーナッツなんきんまめらっかせい」 作：こうやすずむ、絵：中島睦子 ●苗植付：ブロッコリー、キャベツ、リーフレタス ●収穫：なす ●手入れ：さつまいものつる返し、草取り ※9/16の延期
第7回 10月14日(土)	絵本の読み聞かせ 「パンプキン」 作：ケン・ロビンズ ●収穫：落花生、なす、ピーマン、さつまいも、里芋 ※10/21を変更
第8回 11月18日(土)	絵本の読み聞かせ 「さつまいものおいも」 作：中川ひろたか、絵：村上康成 ●収穫：さつまいも（紅はるか、コガネセンガン、種子島紫、安納芋） ●果樹植樹：キンカン



絵本の読み聞かせ



苗の植え付け



さつまいもの収穫



種まき

VI-2-2 小学生のための自然と生活の体験塾（子どもゆめ基金助成活動）

子どもの成長の基礎は生活体験の質と量の蓄積に依拠している。子どもの体験獲得において、次の3点が大切であると考え、それらの能力を高めるためにプログラムを構成した。

自然の生態を知るとともに、一つには自然にひそむ危険から身を守る安全確保の術を知ること、二つには自然を保護する方法を知り実践すること。三つ目には、家事を担う基本技能を体得する事である。家事を分担する力は、家族をはじめとする集団生活を送るうえで求められる基本的能力である。

概要

- ① 期日：5月～11月（合計7回）
- ② 対象者：小学4年生～6年生 20名程度
- ③ 内容：（講師は下欄参照）
 - 自然にひそむ危険から身を守る
 - 生き物や自然について知る
 - 家事を担う基本技能を体得

プログラムの流れ

- 9:30 開講式、今日の活動の説明
- 9:45 活動①
- 11:45 昼食の準備、会食、後片付け
- 14:00 活動②
- 16:00 活動のふりかえり
- 16:30 閉講式

期 日	活動内容
第1回 5月28日（日）	日本の伝統食づくり～豆腐の作り方～ （野見山三枝子氏・平野明美氏）
第2回 6月24日（土）	自然と野菜・安納いもの育て方 （上野敬一郎氏・上野久子氏）
第3回 7月22日（土）	カブトムシの生態と飼い方（岸本博和氏） スズメバチなどの生態と、身を守る方法や駆除法 （村瀬和彦氏）
第4回 8月26日（土）	加工食品の作り方～ソーセージ・ケチャップ～ （津村有紀氏）
第5回 9月23日（土）	トイレ掃除の仕方（筑豊掃除に学ぶ会の皆さん）
第6回 10月28日（土）	日本の伝統食作り～味噌の作り方～ （津村有紀氏） ※10/22を変更
第7回 11月25日（土）	動物の飼養（犬丸憲之氏）



豆腐作り



カブトムシのスケッチ



ソーセージ作り



トイレ掃除



味噌づくり



ヤギの心音を聴く

VI-2-3 集団生活体験入門講座（子どもゆめ基金助成活動）

集団生活における基本的な行動の仕方を体得させる。活動場所である飯塚市庄内生活体験学校で異年齢集団での生活をする。食べることや寝ることのために必要な活動場面をくぐらせつつ、初対面の児童同士が役割の分担や協力する際の仕方を体験を通して学ぶことは一つの目標である。この施設では、野菜の大部分を無農薬で栽培するという独自の作業目標を立てているので、汚れることをいとわず働くことができるようになることが大きな目標の一つである。

概要

- ① 期日：5月～2月（合計 10回）（第 1 日曜日）
- ② 対象者：小学 2年生～6年生 30名程度
- ③ 内容
 - 調理指導 講師：川上延子（管理栄養士）
安全な調理器具の使い方、食品衛生、食事の盛り付け方、基本的な調理技法（煮る・焼く・炒めるなど）
 - 風呂焚き指導 講師：辻正晴（小学校教諭）
火起こしの仕方、ステンレス製風呂釜の使い方、安全な道具の使い方、湯加減の方法、風呂掃除の仕方
 - ご飯炊き指導 講師：篠崎和史（体験活動指導者）
飯盒の使い方、火おこしの仕方、安全な道具の使い方、火加減の方法、消し炭の処分方法
 - 動物飼養指導 講師：生山真美（ヤギの飼養者）
ヤギやウサギの生態、ヤギの繋牧方法、給餌の仕方、小屋掃除の仕方と意義

プログラムの流れ

- 10：00 開講式、オリエンテーション
- 10：30 講話
- 10：50 共通学習、班別活動
- 13：00 会食、後片付け
- 14：20 活動のふりかえり
- 15：00 閉講式



講話の様子



火起こしの指導



ヤギのブラッシング



鉈の使い方の指導

期日	参加人数
第1回 5月21日（日）	4年生（4名）5年生（8名） 計 12名
第2回 6月4日（日）	2年生（6名）3年生（1名） 4年生（17名）5年生（5名）6年生（4名） 計 33名
第3回 7月2日（日）	2年生（6名）3年生（10名） 4年生（7名）5年生（4名）6年生（5名） 計 32名
第4回 8月6日（日）	2年生（5名）3年生（6名） 4年生（2名）5年生（3名）6年生（2名） 計 18名
第5回 9月3日（日）	2年生（11名）3年生（5名） 4年生（7名）5年生（4名）6年生（3名） 計 30名
第6回 10月8日（日）	2年生（5名）3年生（4名） 4年生（9名）5年生（3名）6年生（2名） 計 23名
第7回 11月5日（日）	2年生（7名）3年生（5名）5年生（1名） 計 13名
第8回 12月3日（日）	2年生（13名）3年生（7名） 4年生（7名）5年生（4名）6年生（1名） 計 32名
第9回 1月7日（日）	4年生（11名）5年生（4名）6年生（5名） 計 20名
第10回 2月18日（日）	2年生（4名）3年生（8名） 4年生（4名）5年生（3名）6年生（2名） 計 21名 ※2/4を変更
合計	251名

講話「食中毒と調理する上で注意すること」（講師：川上延子氏）

食事とは、胃袋だけではなく心も満たし、豊かな感性と味覚を育むもので「心の栄養」でもある。しかし、食事を作る上で注意すべきことを知っておかないと、食中毒になったり、豊かな感性・味覚を妨げることにもなる。そこで、食中毒を起こさないための方法や注意点などを、食品衛生の観点からこの講話では学んだ。

VI-2-4 ドングリの森づくりとしいたけ栽培（子どもゆめ基金助成活動）

この地域では、かつて椎茸栽培をすることで生計を立てていた農家が多く存在し、山林が維持されてきた。しかしながら、子どもたちはその歴史を知らない。そこでドングリからクヌギの木を育てる段階、育ったクヌギを伐採し、椎茸菌を打ちホダ木にする段階、収穫を終えたホダ木を土（畑）に返す段階、すべてを体験させる。この過程を通して先人の生産活動の苦労や自然の循環を体感させることを目的とする。

概要

- ①期日：12月～2月（合計5回）
- ②対象者：小学2年生～6年生 20名程度
- ③内容（講師：松岡賢一氏）
 - ドングリの植樹
 - クヌギ伐採

プログラムの流れ

- 9：30 受付、集合
- 9：45 開講式
(理事長挨拶、講師紹介、活動説明)
- 10：00 シイタケ栽培活動
- 11：30 閉講式（理事長挨拶、事務連絡）
- 12：00 解散

期日	活動内容
第1回 12月9日（土）	クヌギの伐採
第2回 12月23日（土）	ドングリの植樹
第3回 1月13日（土）	椎茸のコマ打ち体験 「しいたけのさいばい」（「森喜作伝」より）の読み聞かせ
第4回 1月27日（土）	椎茸のコマ打ち体験 「しいたけのさいばい」
第5回 2月17日（土）	椎茸のコマ打ち体験 「しいたけのさいばい」



椎茸のコマ打ち

VI-2-5 幼児と児童のための冬と早春の農業体験（子どもゆめ基金助成活動）

冬だからやらなければならない農業体験があり、春だからやらなければならない農業体験がある。肌寒い冬と早春の農業体験をくぐらせて我慢の必要性を教え、年間を通して行われる農業の営みの重要性と必要性を体感体得させる。

概要

- ① 期日：12月～2月（合計4回）
- ② 対象者：児童・幼児&保護者 20名程度
- ③ 内容・講師：
 - 農薬を使わない野菜栽培
 - (指導者：荻原史朗氏、河中利通氏)

プログラムの流れ

- 10：00 開講式、オリエンテーション
- 10：30 講話
- 10：50 共通学習、班別活動・食事作り
- 13：00 会食、後片付け
- 14：20 活動のふりかえり
- 15：00 閉講式

期日	活動内容
第1回 12月16日（土）	絵本の読み聞かせ 「そらまめくんのベッド」 作：なかやみわ ●播種：グリーンピース ●植付：ニンニク ●作業：ブロッコリーの草取り
第2回 1月20日（土）	絵本の読み聞かせ 「だいこん」 ●作業：ブロッコリーの土寄せと追肥 小松菜とホウレン草に不織布張り
第3回 2月24日（土）	絵本の読み聞かせ 「いもいもおいも」 作・絵：レオネル・ル・ヌウアニック 訳：栗栖 カイ ●播種：ジャガイモの植付 ●収穫：ホウレン草
第4回 3月21日（土）	絵本の読み聞かせ 「きゃっきゃキャベツ」 作：いわさきゆうこ 「おおきなおきなにんじん」 作：刀根里衣 ●播種 大根、ニンジン 春キャベツの植付 ●収穫 ほうれん草、ブロッコリー、小松菜



ブロッコリーの土寄せ

VI-2-6 第1回生活体験発表会

- ◆ 発表会の目的：来年は生活体験学校の開設から30年を迎える。これまで、生活体験学校に関わっている方たちの、それぞれの体験を発表したり交流したりする機会はほとんどなかった。30周年記念のイベントとして、子ども・保護者、ボランティア、職員、それぞれの体験を発表し交流し合って、相互の実践の進展に役立てる。
- ◆ 日 時：平成29年11月23日（木）13：00～15：50
- ◆ 参加対象者：市内の合宿体験者と保護者
県内外の社会教育関係者、生活体験プログラムの実践者他
- ◆ 日程 & 内容：
 - 13：00～13：10 開会行事
 - 13：00～14：00 体験発表1：「生活体験学校で活躍するボランティア」
篠崎和史氏（飯塚市役所）
川上 延子氏（管理栄養士）
渡邊 福氏（庄内子育て支援センター）
 - 14：00～14：35 体験発表2：「子どもと保護者が語る生活体験学校」
甲斐 翔太君・甲斐 亜希子氏
徳永 有希さん・徳永 康幸氏
飯塚市緑の少年団のみなさん
 - 14：35～15：20 実践発表：「現在の生活体験学校職員の活動状況報告」
原 和也氏（副館長代務）
谷 忠広氏（事務長）
祝原 政弘氏（支援員）
正平 高志氏（支援員）
津山 武咄氏（支援員）
河中 利通氏（支援員）
福間 美紀氏（支援員）
 - 15：20～15：40 理事長報告
 - 15：40～15：50 閉会行事
- ◆ 参加者数：40名



体験発表1



体験発表2



実践発表

VI-2-7 第1回幼児の野外活動支援報告会

◆目的

飯塚市庄内生活体験学校では、幼稚園・保育園（所）・認定子ども園の利用を新たに広げること为目标にしてきました。生活体験学校を利用したいという保育・教育施設との出会いがあって、僅かな事例ですが実践することができました。いくつかの事例報告をもとに、手にした成果と残った課題を整理し、平成30年度の実践に活かしたいと報告会を企画しました。

◆主催 NPO 法人体験教育研究会 ドングリ

◆実施日 平成30年3月28日（水曜日）

◆場所 飯塚市庄内生活体験学校

◆日程 9:30 石焼きイモ窯の火入れ、利用法と説明開始

10:00 開会行事、理事長挨拶

10:10 活動報告1：「年中組87名の芋ほり体験活動」
愛宕幼稚園々長 石井 啓子
生活体験学校支援員 河中 利通

10:25 活動報告2：「歩いて来ました！年中組18名の芋ほり体験活動」
生活体験学校副館長代務 原 和也

10:30 活動報告3：「年中組87名のコマ打ち体験活動」
愛宕幼稚園教諭 田中祐子
生活体験学校副館長代務 原 和也

10:45 活動報告4：「年中組20名のコマ打ち体験活動」
生活体験学校支援員 椛澤 美穂

11:00 写真による報告：「庄内子ども園・筑穂保育所
ヤギの移動展示と石焼きイモ釜の使い方」
生活体験学校副館長代務 原 和也

11:15 質疑応答及び施設・畑の観察
タマネギの収穫予定説明、落ち葉の堆肥作り、ピザ窯見学と
使用法説明

12:00 石焼きイモ試食

12:15 閉会式

12:20 解散

◆参加者数：14名

愛宕幼稚園、桂川町教育委員会、
飯塚市生涯学習課、ボランティア、通学合宿 OB



VII 決算報告

平成29年度収支決算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日

科目	金額 (単位: 円)			備考
I 経常収益				
1 受取会費				
法人年会費	13,000			
法人入会金	0	13,000		
2 受取助成金等				
指定管理料	16,888,000			
子どもゆめ基金助成金	2,457,000			
九電みらい財団助成金	0			
緑の少年団助成金	65,100			
事業運営借用金				
青少年育成会助成金	10,000	19,420,100		
4 事業収益				
体験合宿事業参加費	531,696			
子どもゆめ基金活動参加費	155,600			
事業参加費		687,296		
5 その他収益				
前年度繰越金	37,029			
雑入	266,671			参加費他
寄付金		303,700		
経常収益計			20,424,096	
II 経常費用				
職員給与	12,040,811			
福利厚生費	27,048			
法定福利費	699,249			
研修費	37,116			
光熱水費	924,016			
修繕費	298,627			
燃料費	86,059			
役務費	633,217			
消耗品費	1,292,565			
委託料	1,308,543			
備品購入費	213,840			
諸資材費	134,094			
原材料費	170,520			
賃借料	60,912			
使用料	14,545			
負担金	14,259			
講師謝礼	1,905,000			
旅費	37,800			
通信運搬費	68,336			
食材費	431,660			
経常費用計			20,398,217	
当期経常増減額			25,879	
当期正味財産増減額			-11,150	
前期繰越正味財産額			37,029	
次期繰越正味財産額			25,879	

Ⅷ 資料編

Ⅷ-1 本管理業務の実施状況 (H29. 4月～H30. 3月)

① 「生活体験合宿」の実施状況

期 間	日 数	子ども 延数	大人 延数	班 名	内 容 (体験活動) ※各班の係活動 (調理、動物、菜園、風 呂、ご飯) は毎回同じである。	申 込 者 数	子 参 加 数	参加者数					
								2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	保 護 者
6 月 24 日 ～ 25 日	2	32	26	1 班	サツマイモの植付、 デッキ掃除	17	16	4	0	7	4	1	13
7 月 8 日 ～ 9 日	2	36	30	2 班	畑の除草、インゲン植付、 原木立て、ホダ木の整理	18	18	3	1	10	1	3	15
7 月 16 日 ～ 17 日	2	34	26	3 班	堆肥の切り返し、原木天地 返し、つくね芋植え付け	19	17	5	4	3	3	2	13
7 月 27 日 ～ 28 日	2	32	20	4 班	緑の少年団交流集会参加	20	16	2	6	4	1	3	10
8 月 21 日 ～ 8 月 22 日	2	20	18	5 班	ヒラタケ本伏せ、セメント 施工の学習、ピザ小屋整理	14	10	4	2	2	1	1	9
8 月 26 日 ～ 8 月 27 日	2	16	12	6 班	ソーセージ作り、穴埋め作業、 薪の整理	13	8	1	4	0	2	1	6
9 月 9 日 ～ 9 月 10 日	2	24	20	7 班	ニンジン播種、キュウリ片付 け、オクラ手入れ、堆肥切り 返し	19	12	7	1	2	0	2	10
9 月 23 日 ～ 9 月 24 日	2	36	30	8 班	トイレ掃除の仕方、ネギ・春菊 植付、小松菜播種	19	18	4	4	5	4	1	15
10 月 14 日 ～ 10 月 15 日	2	24	24	9 班	椎茸栽培場整理、食育指導 (純真短期大学)、農具学習	16	12	2	1	6	1	2	12
10 月 28 日 ～ 10 月 29 日	2	24	24	10 班	味噌づくり、コンクリート 施工学習	15	12	4	3	3	2	0	12
11 月 11 日 ～ 11 月 12 日	2	22	30	11 班	里芋掘り、ブロッコリー土 寄せ、サツマイモ掘り	14	11	6	4	0	1	0	15
12 月 9 日 ～ 12 月 10 日	2	30	26	12 班	シイタケ栽培、ジャガイモ掘 り、落ち葉拾い、小松菜播種	17	15	9	2	4	0	0	13
12 月 23 日 ～ 12 月 24 日	2	34	30	13 班	つくね芋収穫、ドングリ植樹、 玉ねぎ補植、ジャガイモ収穫	19	17	4	5	3	4	1	15
1 月 13 日 ～ 1 月 14 日	2	24	26	14 班	シイタケコマ打ち、ピザ焼き 体験	18	12	0	0	7	3	2	13
1 月 27 日 ～ 1 月 28 日	2	18	20	15 班	シイタケコマ打ち、玉ねぎ除 草、鳥羽池清掃、ピザ焼き	16	9	0	0	7	1	1	10
2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	2	30	30	16 班	堆肥の切り返し、玉ねぎ追肥、 パン焼き体験	18	15	5	7	2	1	0	15
2 月 17 日 ～ 2 月 18 日	2	24	32	17 班	シイタケコマ打ち、玉ねぎの 追肥、パン焼き体験	21	12	1	7	2	2	0	16
3 月 10 日 ～ 3 月 11 日	2	28	34	18 班	防災合宿 (意義・グッズづく り、避難訓練、野外調理)	19	14	6	5	3	0	0	17
小 計	34	488	432			312	244	67	56	70	31	20	229

② 「通学合宿」の実施状況

期 間	日 数	子ども 延数	大人 延数	班名	内 容	申込 者数	子参 加数	参加者数			
								4年	5年	6年	保護 者
5 月 21 日 ～ 27 日	7	84	30	1班	21日：事前研修、開校式 22日～26日：通学及び各係活動 27日：体験活動（柳の定植、伐採した枝の片付け）	30	12	8	4	0	15
6 月 4 日 ～ 10 日	7	119	28	2班	4日：事前研修、開校式 5日～9日：通学及び各係活動 10日：体験活動（緑の少年団自然観察会参加）	30	17	6	3	8	14
11 月 26 日 ～ 12 月 2 日	7	133	30	3班	26日：事前研修、開校式 27日～12月1日：通学及び各係活動 2日：体験活動（里芋手入れ、ペレット肥料散布、ピーマン撤去）	22	19	4	4	11	15
小計	21	336	88			82	48	18	11	19	45

③ 幼児の野外活動支援

期 間	日 数	子ども 延数	大人 延数	内 容	申込 者数	園児参 加者数	参加者数			
							年少	年中	年長	職員
9 月 14 日	1	140	10	ヤギ移動展示（庄内こども園）	147	140	40	50	50	10
11 月 21 日	1	242	13	石焼き芋出前講座（愛宕幼稚園）	250	242	75	87	80	13
12 月 5 日	1	101	8	石焼き芋出前講座（庄内こども園）	110	101	35	36	30	8
12 月 15 日	1	90	10	石焼き芋出前講座（筑穂保育所）	95	90	30	30	30	10
12 月 22 日	1	100	15	ヤギ移動展示（筑穂保育所）	110	100	30	40	30	15
2 月 23 日	1	20	7	コマ打ち出前講座（愛の光保育園）	20	20	0	0	20	7
3 月 24 日	1	30	15	ヤギ移動展示（颯田子育て支援センター）	20	30	0	15	0	15
小計	7	723	78		732	693	210	258	240	78

④ 「地域・行政・大学・企業との連携事業」実施状況

期 間	日数	大人 延数	内 容	申込 者数	参加 者数	参加者数	
						大学	大人
5 月 27 日 ～ 28 日	2	38	純真短期大学食物栄養学科食育キャンプ	17	19	17	2
6 月 17 日 ～ 18 日	2	38	純真短期大学食物栄養学科食育キャンプ	18	19	17	2
9 月 30 日 ～ 10 月 1 日	2	38	純真短期大学食物栄養学科食育キャンプ	18	19	18	1
10 月 28 日 ～ 10 月 29 日	2	10	純真短期大学食物栄養学科教職実践演習	5	5	4	1
11 月 4 日 ～ 11 月 5 日	2	34	純真短期大学食物栄養学科食育キャンプ	15	17	15	2
11 月 11 日 ～ 11 月 12 日	2	12	純真短期大学食物栄養学科教職実践演習	6	12	5	1
小計	12	170		79	91	76	9

Ⅷ-2 平成29年度主催事業実施カレンダー

平成29年度 主催事業実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1												
2				入門3								
3						入門5			入門8			
4			入門2									
5			↑ 通学合宿 (2班) ↓					入門7				
6					入門4							
7										入門9		
8							入門6					
9									しいたけ1			
10									↓ 生活体験合宿 (12班) ↑			
11											↑ 生活体験合宿 (16班) ↓	
12												↑ 生活体験合宿 (18班) ↓
13										しいたけ3		
14										↓ 生活体験合宿 (14班) ↑		
15	野菜1			野菜4								
16										冬春野菜1		
17			野菜3									
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												

野菜：植物栽培・活用体験ドングリ 自然塾：自然と生活の体験塾
 しいたけ：ドングリの森づくりとシイタケ栽培
 冬春野菜：冬と早春の農業体験

Ⅷ-3 施設管理に関する主な写真



ピザ窯建屋に板張り（725cm×372cm）新設



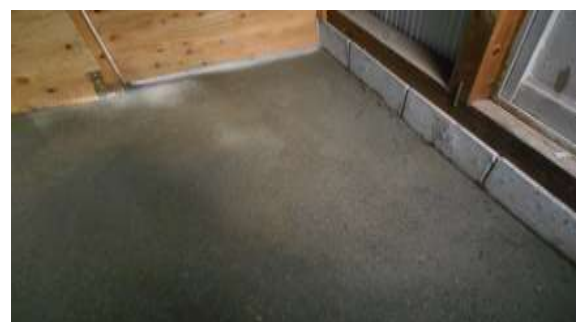
動物棟の増築



駐車線のライン引き



正門横の花壇の拡幅



ウサギ小屋の床にコンクリートを打つ



ボイラー釜・煙突の取替



農楽堂の水道の新設



下駄箱の増設
スノコ製作



南菜園用の水道蛇口の増設



ゴールポストの
撤去



管理棟の屋根・壁の塗装



クスノキの枝降ろしと伐採



南法面の階段の新設



薪倉庫新設



薪置き場の壁の取替



室（ムロ）新設



椎茸の栽培場に建柱して寒冷紗を張る

「協力の大切さ分かった」

飯塚市の庄内生活体験学校
通学合宿の成果発表

飯塚市有安の市庄内生活体験学校で2日、今年度最後の通学合宿の閉校式があり、参加した市立庄内小学校の4～6年生19人が1週間の合宿生活の成果を発表した。

通学合宿は、同施設で子供らが通学しながら6泊7日の共同生活を送る宿泊型プログラム。自炊や農作業、堆肥作りなどを通して、人間関係や自然の大切さを体感させ、子供の自立と自律をはぐくむと、NPO法人体験教育研究会ドングリが実施している。

子供らは朝6時前に起床し、通学前に飯ごうで米を炊き、風呂掃除をこなして登校。下校後も夕食を作って、まきで風呂をたくなど

ハードな合宿生活を体験。閉校式では「協力することの大切さが分かった」「積極的に取り組むことを学んだ」など、一人ずつ成果を発表した。

6年生の兄豪さん

「みなで寝たり、話しながら食事したり、楽しかった。注意されたりもしたが、やり遂げた感じがする」と笑顔だった。【斎藤毅】



合宿の成果を発表する子供たち

毎日新聞 H29.12.3

シイタケのコマ打ち 児童が挑戦

飯塚市の庄内生活体験学校

飯塚市有安の市庄内生活体験学校で27日、シイタケの菌を原木に打ち込む体験があり、市内8校から小学4～6年の児童9人が参加した。同学校を運営するNPO法人「体験教育研究会ドングリ」（正平辰男理事長）の主催。

同研究会は、野菜や樹木などを育てる体験に集団で取り組むことで、子どもたちの自主性や協調性などを

養おうと企画。苗木から育てた長さ10層のクヌギと、地元住民が提供したクヌギを材料にし、1層の長さに切った丸太に電動ドリルで穴を開けた。

児童は、シイタケを生産していた松岡賢一さん（70）の指導のもと、15秒感覚で開いた穴にシイタケの菌が入ったコマを木づちで打ち込んだ。頼田小4年の植野健太郎さん（10）は「今までしたことのない経験ができた。シイタケは苦手だけど、何年か後にみんなで食べるのが楽しみ」と話した。

（広田亜貴子）



丸太にシイタケの菌を打ち込む児童たち

西日本新聞 H30.1.29

「早くシイタケ食べたい」

飯塚 小学生9人 コマ打ち体験



真剣な表情で原木にコマを打ち込む小学生たち

シイタケの原木栽培で使うコマ打ちの技術を学ぶ体験会が7日、飯塚市内の8小学校から9人の児童が参加して、同市有安の庄内生活体験学校（正平辰男館長）であった。

同校ではドンクリの実からクヌギの木を育て、これを伐採して原木を作り、コマ打ちしてシイタケが育つまでを一貫して教えており、作業の節目ごとに体験会を開いている。小学生たちは正平館長から、コマ打ちの技術を考案した群馬県の故森喜博博士の偉業を聞いた後、父がシイタケ農家だったという同

市職分の松岡賢一さん(70)の指導で、ドリルであけた原木の穴に、シイタケ菌を含んだコマを木づちでたたいて埋め込む作業をした。この日のコマから菌が原木全体に回り、シイタケが生えるまで3年かかるといふ。

参加した同市吉原町の飯塚小6年、和田杏彩さん(12)は「最初はたたくのが難しかったが、だんだん慣れてうまくできた。みんなで作ったシイタケを早く食べてみたい」と目を輝かせた。コマ打ち体験会は2月17日にもある。

【塩瀬温】

毎日新聞 H30. 1. 29

児童防災グッズ製作

飯塚で合宿 東日本大震災教訓に



ポリ袋を使った雨がっぱを試着する児童たち

東日本大震災発生から10日で7年。教訓を忘れず防災意識を高めてもらおうと、飯塚市有安の市庄内生生活体験学校で10日、市内の小中学生を対象にした2日間の防災合宿が始まった。児童16人が参加し、災害への備えを学んだ。

体験学校を運営する同市のNPO法人「体験教育研究会ドンクリ」（正平辰男理事長）が初めて企画した。10日は、参加者がDVDで大津波や地震の危険性を学んだ後、簡易マスクや雨がっぱの作り方を学んだ。

簡易マスクは、キッチンペーパー一枚を複数回折りたたんだ後、両端を折って輪ゴムをはさみ、ホチキスで留めて完成。雨がっぱは、ポリ袋の横から3カ所にはさみて20〜30センチの切り込み

を入れて製作した。

合宿に参加した庄内小4年の石川大樹君(10)は「マスクと雨がっぱは簡単に作られたので、家族にも教えてあげたい」。同小4年の国武凛さん(10)は「家の防災バッグにキッチンペーパーとポリ袋も入れて、災害に備えたい」と話した。

11日は消火訓練や野外炊飯などを学ぶ予定という。

（山本諒）

西日本新聞 H30. 3. 11

Ⅷ-5 平成29年度 役員・職員一覧

役職名	氏 名
理事長	正平 辰男
理事	篠崎 和史
理事	相戸 晴子
理事	成重 貴康
監事	平嶋 智晃

職 名	氏 名	期 間
館長	正平 辰男	平成27年4月1日任用
副館長代務	原 和也	平成27年4月1日任用
事務長	谷 忠広	平成29年4月1日任用
常勤支援員	大庭 拓也	平成29年4月1日任用 平成29年9月30日退任
非常勤支援員	津山 武咄	平成27年4月1日任用
非常勤支援員	正平 高志	平成27年4月1日任用
非常勤支援員	祝原 政弘	平成27年4月1日任用
非常勤支援員	河中 利通	平成27年11月1日任用
非常勤支援員	福間 美紀	平成27年7月1日任用
非常勤支援員	椛澤 美穂	平成29年10月1日任用
非常勤支援員	田中 秀征	平成29年10月1日任用 平成30年3月31日退任

発行責任者 NPO法人体験教育研究会ドングリ

2018年6月15日 発行 (頒価実費 200円)

住所 〒820-0111 飯塚市有安958-1

電話 0948-82-3188 FAX 0948-82-2780

Email taiken.sch@oks.or.jp

HP <http://www.oks.or.jp/~taiken.sch/>

飯塚市庄内

生活体験学校

みんなでやる！みんなできる！

合宿体験

●生活体験合宿【市内全小学校】… 1日 + 1泊2日

●通学合宿【庄内小学校】… 6泊7日



よししょよししょ

堆肥をつくるよ



しっかり出汁をとったみそ汁



ヤギとウサギがいるよ



無農薬野菜！



ピザ生地できた☆

いろいろな体験活動

- 自然と生活の体験塾【市内小学4年生以上】
カフトムシの飼いや、味噌づくり、ヤギとウサギとのふれあいなど
- 野菜作り【市内の幼児・児童】

4月・9月 募集

開館時間 午前9:00～午後 5:00
休館日 年末年始
飯塚市庄内生活体験学校
(指定管理者:NPO ドングリ)
〒820-0111 飯塚市有安 958-1
TEL:0948-82-3188
<http://www.oks.or.jp/~taiken.sch/>

